

### 外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2）	評価
	ホーム便りを地域向けに作成し、回覧板にてホームや認知症についての情報等を発信している。地域の方とは、日常の散歩時に挨拶を交わしたり、中学校の福祉体験を受け入れたり、幼稚園児を招き遊戯を観覧したり、地域の消防団の集まりに職員が参加する等、積極的に交流に取り組んでいる。	
重点項目	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3）	評価
	運営推進会議は年5回開催され、参加者は他グループホームの管理者、家族等、他の介護支援専門員、ホーム部長、施設長、リーダー、職員である。会議の中で、家族から意見があがった場合は、事実関係を確認してから家族に説明している。会議の議事録は誰でも見ることができるように玄関に置いている。次回は地域包括支援センター職員も参加する。	
重点項目	市町村との連携（外部評価項目：4）	評価
	行政とは、サービスの内容の変更等、分からないことがある時に市の担当者を訪ねアドバイスを得ている。市町村主催の認知症市民講座に参加している。地域包括支援センターには、グループホームの実情を話に行ったこともある。	
重点項目	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6）	評価
	来訪時の声かけや、月1回のホーム便り（入居者ごとの様子を伝える）を各家族に配布し、何でも話してもらえよう雰囲気づくりに努めている。外部評価の家族アンケートでの率直な意見や感想も大事にしている。要望が出た場合は、文書にて説明している。	
重点項目	その他軽減措置要件	評価
	「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。	
	運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。	×
	運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	×
総合評価		×

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設7年目であり、共用型のデイサービスも開設した。地域密着型サービスとしての意義を踏まえた理念、「支え合い一緒に暮らすこの町で」を職員全員で話し合いながら基本理念に加えた。地域に向けてホーム便りを作成し、グループホームや認知症についての理解、啓発活動を行っている。中学校の体験学習や幼稚園児の慰問を受け入れたり、地域の消防団に参加する等、地域との交流を大事にしている。運営推進会議でも多職種の方が参加されている。

1. 外部評価軽減要件

別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。

運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。

運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。

別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2 外部評価軽減要件 における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域とのつきあい	(例示) 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取り組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

(注) 要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。